

36

116

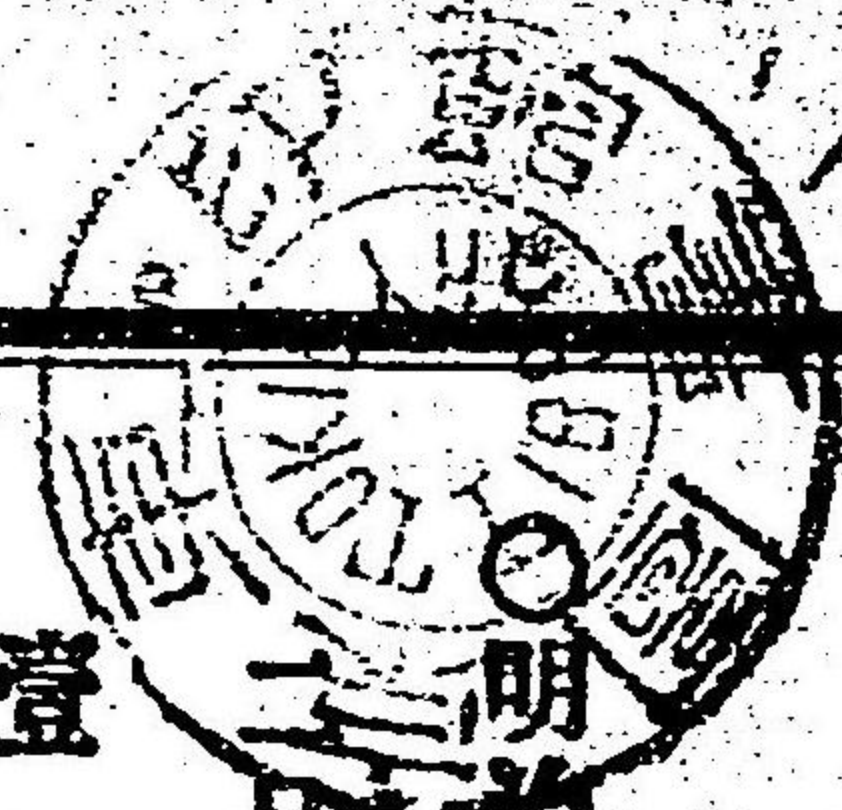
明治廿三年五月

氷上郡第九回勸業會錄事

兵庫縣氷上郡役所

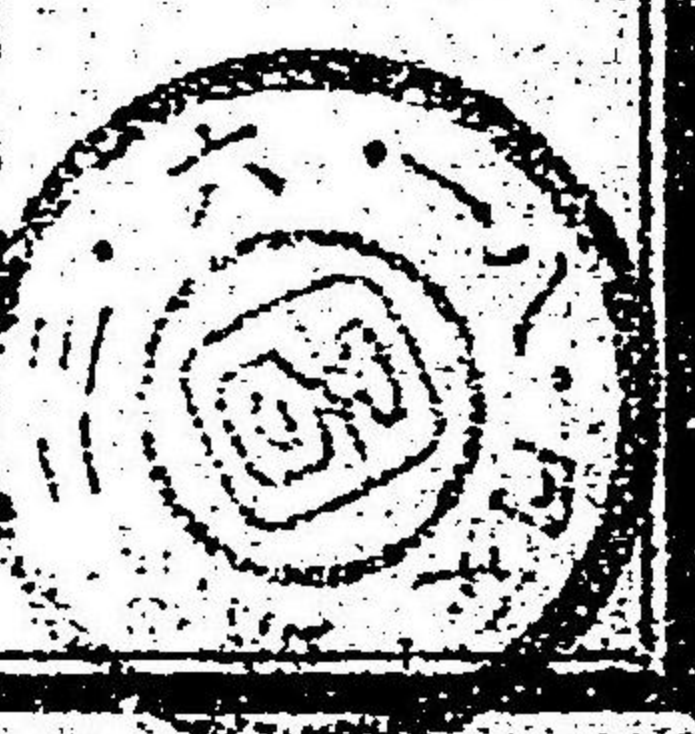
特46  
294

W24119/23



第九回氷上郡勸業會錄事

明治二十三年四月第九回氷上郡勸業會ヲ氷上高等小學校講堂ニ開ク十日ニ起リ十日ニ了ル其會員ノ姓名席次並會談ノ要領左ノ如シ



- |    |     |         |    |     |        |
|----|-----|---------|----|-----|--------|
| 壹  | 番常員 | 足立治郎右衛門 | 貳  | 番村長 | 若林爲造   |
| 參  | 番村長 | 山下銀四郎   | 四  | 番村長 | 和田彌吉   |
| 五  | 番村長 | 金川文藏    | 六  | 番村長 | 足立重左衛門 |
| 七  | 番常員 | 秋山松之助   | 八  | 番町長 | 土田雅二   |
| 九  | 番村長 | 細見和平治   | 拾  | 番助役 | 鈴木徳三郎  |
| 拾壹 | 番村長 | 佐々木雅治   | 拾貳 | 番村長 | 野村久三郎  |
| 拾三 | 番常員 | 安藤久次郎   | 拾四 | 番客員 | 中村重三郎  |
| 拾五 | 番常員 | 竹安甚三郎   | 拾六 | 番助役 | 村上壽太郎  |

稲作教手

拾七番村長谷垣孫九郎 拾八番助役中井松之助  
 拾九番村長衣川榮太郎 貳拾番常員梅垣主稅之亮  
 廿壹番常員村上八兵衛 廿貳番常員若林調之介  
 廿參番常員中島七右衛門 廿四番常員木下幾藏  
 廿五番常員上田新治 廿六番村長山口義丸  
 廿七番助役高見宗左衛門 廿八番常員畑 七右衛門  
 廿九番村長田村彌治右衛門 參拾番助役由良友四郎  
 卅壹番常員山本伊三郎 卅貳番常員足立喜作  
 卅參番常員和田鐵之助 卅四番常員小寺忠逸  
 卅五番村長足立慎之助 卅六番常員細見秀助  
 卅七番村長足立吉之助 卅八番村長上田捨藏  
 卅九番助役生田國太郎 四拾番村長木下民藏

四拾壹番代理長岸田宗三郎 四拾貳番常員稻上音次郎  
 四拾參番常員余田綾之助 四拾四番常員采女與市郎  
 四拾五番常員田中庄三郎 四拾六番村長安田亟右衛門  
 四拾七番村長須原次郎兵衛 四拾八番常員足立嘉平治

此外病氣事故等ニ依リ欠席セシ會員

常員 中川幸太郎 常員 由良市郎治  
 常員 足立百太郎 常員 青木卯兵衛  
 常員 余田源右衛門

番外壹番 氷上郡 長芦田辰左衛門  
 番外貳番 氷上郡書記吉見誠一

問題目次 (宿題)

- 一 稻種風土氣候ニ適スル良好ノ種子精撰早中晩各五種位ニ可成一  
定セシムル手段
- 二 稻作改良ノ普及ヲ圖ル順序方法
- 三 同業組合準則ニ據リ稻米改良組合ヲ設クルノ利害得失
- 四 共有山林禁伐及樹苗植込ノ方法
- 五 共有山野火入及焼畑ヲ禁スルノ利害得失
- 六 種牡牛ヲ改良シ且牧牛繁殖ヲ促ス手段
- 七 第二回獎業會出品ヲ米麥小豆綿繭糸茶織物ノ八種トナスヤ否

附

- 一 養蠶改良及紅茶製造傳習生勸誘ノ事
  - 二 内國勸業博覽會縱覽人勸誘ノ事
- 外ニ養蠶ニ係ル說話

議 題 (臨時發題)

氷上郡勸業會場整理概則

○開談ニ先ヲテ會長及代理者ヲ互撰セシニ高票ヲ以テ左記ノ適當撰各承諾セリ

會 長 山下 銀四郎  
代理者 山口 義丸

○番外貳番(吉見)曰今回發付セシ各問題ニ就キ聊カ其旨意ノアル所ヲ説明セン  
第一問題稻種ヲ一定スルノ件ハ從來本郡ノ稻種ハ種類ノ良否如何ヲ論セス殊ニ小  
作人輩ニ至ツテハ徒ダニ収量ノ多キヲ貪リ益粗雜ニ流ル、ノ傾アリ今之ヲ良種數  
品ニ限定セントスルハ實行上頗ル困難ナリト雖モ我郡ノ殖産上殊ニ必要ノ件ナレ  
ハ宜シク適當ノ方法ヲ講シ以テコレガ改良ヲ圖ラサルベカラス既ニ昨年本縣告諭

第三号ヲ以テ其利害得失ヲ明瞭カレ其後本郡私立勸業會ニ於テモ亦コレガ改良ノ  
法案ヲ設計セシモ未ダ實行ノ運ニ至ラズ故ニ今復本題ヲ提出シ本會ニ於テコレガ  
方法ヲ談議シ以テ其實行ヲ期スルハ最モ當ニ先ノスヘキノ務ナルベシ先般河井縣  
屬ノ談ニ播州地方ニ於テハ地主ニ於テ善良ノ種子ヲ撰ヒ之ヲ小作人ニ貸與スル向  
モアリ又淡州地方ニ於テハ米作改良ノ爲メ同種類ノ米ニシテ其價他地方ノ米ニ比  
スレハ凡ソ五拾錢許貴シト云フ米種ノ撰擇豈ニ冷淡ニ視ルベケンヤ故ニ本會ニテ  
輸出又ハ酒造ニ適スル善良ノ稻種ヲ審査シ各員ニ於テ試作セラレ漸次コレガ目的  
ヲ達センコトヲ望ム

第二問題稻作改良ハ一昨年來本郡ニ於テ林遠里翁ノ演說ヲ聽キ又其門人ヲ聘シ以  
テ米作改良ヲ計リタリ然ルニ昨年公立試作場ノ成績ニ據レハ其收穫舊作法ニ比シ  
平均壹反歩ニ付壹石貳斗余ヲ増セリ是幾分カ肥料ノ多キニ因ルト雖モ又必作法改  
良ノ効ニ因ラズンハアラス今仮リニ壹反歩ニ付五斗ノ増収アリトスルモ全部ニ積

算スルホハ實ニ何万石ト云フ増収ヲ得ベシ米作改良ノ効アル夫レ斯ノ如シ又現ニ  
改良法ヲ實行セシ國々ハ其著シキ增收アリシトハ新聞雜誌ニ記載アリテ各員ノ共  
ニ知ラル、所ナリ然ラハ則米作ノ改良ハ之ヲ實施シテ益アルモ害ナキハ各經驗ニ  
照ラシテ明ナリ故ニ郡内各村ニ試作場ヲ設ケ益々進ンテコレガ普及ヲ圖ラント欲  
ス己ニ今年モ郡内ニ多數ノ試作者モアレハ旁本會ニ於テ充分改良作法ヲ講究セラ  
レノコトヲ望ム

第三問題稻米改良組合設置ハ七題ノ中ニ就キ最難問題タリ此件ニ就テハ昨年本縣  
第一部長ヨリ本郡私立勸業會ニ諮詢アリ同會ニ於テ審議ノ末其意見ヲ答申シ其同  
時郡長ヘモ同様ノ意見書ヲ呈出セリ其大旨ハ米作ノ舊弊ヲ改良セシムハ宜シク民  
約ヲ以テ改良組合ヲ設ケサルベカラスト云フニアリキ先之郡衙ニ於テモ本會ヘ諮  
問シ規約ノ標準ヲ示シ各村最寄地主ヲシテ組合ヲ設ケ以テ實行方ヲ勸誘シ廿一年  
ニ於テ稍其端緒モ開ケタリシガ計ラザリキ客秋非常ノ水害ニヨリ其計畫爲メニ一

時中止ニ歸セリト雖ニ素ヨリ恬然トシテ久シク看過スベキ事ニアラス依テ今其絶緒ヲ繼カント欲セバ本會ニ諮リシ後適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ可トス此レ本題ヲ發セシ所以ナリ

第四問題山林保護ノ件ニ就キテハ是迄郡長ヨリモ屢々告諭セラレタル所アリシガ兎角實際行ハシ難カリシ然ルニ昨年所在山岳崩壞ノ災害アリシ爲メ一般亦大ニ警惕スル所アルモノ、如シ今此機會ヲ外サズ充分干涉ヲ加ヘ禁伐林ノ法ヲ設ケ及ヒ樹苗植込ノ手續キテ實行セハ異日暴出水又ハ山崩等ノ害ナキノミナラス早魃ノ時ニ際スルモ又自ラ水分涵養ノ淵源アリテ爲メニ不虞ノ災害ヲ減スルニ至ルベシ共  
有山樹苗植込ノ方法ハ既ニ稻土大名艸地方ニ於テ申合規約ヲナシ縣廳ノ認可ヲ得テ之ヲ實行セリ望ムラシハ關郡普ク此等ノ法ニ倣ハシメンコトヲ  
第五問題山野火入及燒畑ニ關スル件モ畧前題ノ意ヲ領シ充分討議アリタシ  
第六問題種牡牛改良及牧牛繁殖ノ事ナリ此レハ從來郡内神樂遠坂芹田葛野地方ニ

於テハ本業ノ爲メ年々多少ノ収益アリトハ雖ニ未タ改良法アラサルカ爲メ十分ノ利ヲ見ル能ハス然ルニ此頃當郡ノ或ル有志者ニ於テ舊三田藩主所收ノ種牛購入ノ事ニ盡力セル趣然レ其價タル一頭ニ付百圓以上ニ達スト云ヘハ今其隆盛ヲ圖ラントセハ到底一二有志者ノ得テ堪フベカラサル事業ナレハ宜シク全郡ノ有志家協同一致以テ一ノ會社ヲ設ケ漸次牧牛ノ改良ヲ行ナハ、爲之収益ノ増加スルノミナラス間接ニ農業上ニ與フル所ノ利益蓋シ亦鮮少ナカラサルベシ  
第七問題獎業會ノ出品タリ昨年開設スベキ筈ナリシモ非常水災ニ遭逢シ均シク完全ノ出品爲シ能ハサルヲ以テ本年迄延期セリ而シテ其品種ハ米、麥、大豆、小豆、綿、織物、茶、煙艸ノ八品ナリシカモ今年ハ本縣下蠶糸業組合繭糸共進會ノ開設ナシ然ルニ本郡農産物ノ改良ヲ促スニハ繭糸ハ最モ重要ノ品物ナレハ是非共之ヲ出品ニ加ヘサルベカラス就テハ右八品中大豆、煙草、ノ二品ヲ省除シ之レニ換ルニ繭糸ヲ以テシ都合八品トナサント欲スルナリ

(一) 稻種風土氣候ニ適スル良好ノ種子精撰早中晩各五種  
位ニ可成一定セシムル手段

○貳拾六番(山口)曰稻米ノ改良ハ如何ニモ必要ノ事件ナリト雖モ之ヲ實行スルハ甚  
ク難シ試ミニ郡内ノ米作者ヲシテ悉皆海外輸出ヲ目的トスルモノタラシメハ其レ  
或ハ行ハレシテ尙モ隣國隣郡ニ輸出スルヲ目的トスルモノナレハ米質ノ良否ハ姑ク  
之ヲ二段ニ置キ主トシテ收穫ノ多キヲ望ム是又固ヨリ過ムベカラサルノ勢ナリ況  
ンヤ郡内此種ノ米作者多キニ於テチヤ今米質既ニ良ク收穫亦多キモノヲ撰ハント  
スルモ極メテ難キノミナラス地味風土各地宜キヲ異ニスレハ到底一郡一轍シ難シ  
故ニ更ニ各町村勸業會ニ於テ十分討議シ以テ之ヲ決スルヲ可トス豈今遽ニ輕々敷  
議丁スベキモノナランヤ○七番(秋山)曰貳拾六番説ノ如ク一郡一定ハ逆モ望ミ難  
シ故ニ各町村ニ數名ノ委員ヲ撰定シ各米作人ノ種子ヲ檢査シ若シ不慮ノ種子アラ

ハ之ヲ良種子ニ交換シ又地主ニ於テ其小作人ニ對シ同手段ヲ施シ充分之ヲ實行セ  
ハ漸次改良ノ域ニ進マン○番外壹番(郡長)曰予カ前任所即播磨美囊郡ニテ稻種改  
良法ヲ勸奨スルニ先ツ地方適當ノ種類上等幾種ト限リ每町村中ニ農事熱心又ハ老  
練家若干名ニ委托シ種子ノ撰擇苗ノ培養ヲ一様ニ該町村ハ其委托人ノ作リ上ケ  
タル苗ヲ悉ク移植スルコトシ其報酬ハ撰種耕耘ノ手數及肥料等ノ費用ニ相應スル  
ノ全額或ハ米量ヲ以テ各自ヨリ弁償スルノ法ヲ以テセリ此法タル事簡易ニシテ改  
良ノ實ヲ擧グルニ便法ト存スルカ故ニ諸君參考ノ爲メ一言ス○番外貳番(吉見)曰  
有馬郡ニテハ稻種撰擇委員ヲ設ケ每秋收穫期ニ先ダテ諸方ニ派出シ好稻アルヲ視  
ハ之ヲ購ヒ歸リ其翌年之ヲ試作ス既ニ當郡ヘモ一昨年及昨年ノ兩度マテ來リシ由  
ナルガ當郡ニテハ購ヒ歸ルベキ程ノ良種ナシト尤稻種ヲ擇ブニハ日下種摘ノ季節  
ナレバ成ルベク現物ニ就クヲ利トス○壹番(足治)曰余ノ居村ニテハ稻種改良上種  
々尽力セシモ未ダ良種ヲ得ル能ハス會々他方ヨリ大粒ノ種子ヲ得シヲアリシモ兎

角腹白多クシテ以テ良種トスルニ足ラス今大粒ニシテ腹白ノ少ナキ種子ハ到底得難キモノ歟○七番(秋山)曰良種子ト雖モ其土地ヲ異ニスルモハ其結果亦同シカラズ故ニ其氣候ト地味トニ適スルモノヲ撰ブテ以テ最良ノ策ト考ヘラル○番外貳番(吉見)曰只今昨年試作ニ係ル稻種六種ヲ取寄セタリ諸君實物一覽アルベシト於是會員順次ニ之ヲ歴覽セリ而シテ其稻種名ハ高津早稻、市ノ貝坊主(中稻)、早稻源、朝日坊主(晚稻)、ユマ早稻、川下(中稻)ナリ○六番(足重)曰風土ヲ異ニスレハ其種子ノ適否亦自ラ異ナラサルヲ得ズ故ニ一郡一定ニ難ト雖モ苟モ販路ヲ擴張セントセハ各地適當ノ種子ヲ精撰シ以テ米作改良ノ基ヲ立テサルヘカラス然レモ米作人ハ兎角眼ヲ収穫多量ノ種子ニ注キ米質ノ如何ヲ視ルモノ甚タ稀ナリ此等ハ本會員等ヨリ充分勸奨シ以テ漸ク改良ヲ圖ルコトヲ望ム○七番(秋山)曰本郡ニ於テモ是非稻種選擇委員ヲ置キ收穫期ニ先ダテ諸方取調以テ好種子ヲ得ル法ヲ設ケント欲ス○會長(山下)曰選擇委員ヲ設クルニ係ル費用ノ出途ハ如何○七番(秋山)曰選擇

委員ハ各其町村ノ地主ニテ義務ヲ以テ之ヲ爲ストセハ別段其費ヲ要セサルナリ○拾四番(中村)曰第二問題ヲ議セントモハ先第壹問題ヲ審議セサルベカラス如何トナレハ到底種子ヲ撰定セザレハ十分改良スル能ハサレハナリ今郡勸業會ニシテ之ヲ定ムル能ハストセハ此後町村勸業會ニ於テ之ヲ定ムル蓋シ覺束ナシ故ニ必本會ニ於テ種子ヲ確定セラレシコト望ム誠ニ能ク如クナレハ第二問題ハ輒チ自ラ行フヲ得ベシ己ニ昨年郡衙ヨリ取寄セラレタル白玉及政岡等ノ如キ良種ノ作米ハ本郡在來尋常ノ作米ヨリ高價ナリシニアラスヤ是ヲ以テ推スモ種子選擇ノ必要ナル亦知ルベキナリ故ニ當會ニ於テ本郡ニテハ何々種ヲ用フベキヤヲ議定シ置クハ最モ緊要ノコトナリト信ス

(結局)本題ハ第三問題ト相干連セシカ第三問題決議ノ成績ニ據リ種類ハ偏ニ五種ツ、ニ限ラズ更ニ各町村勸業會ニ於テ十分協議研究シ其地方ニ適スル良好ノ種子ヲ精撰スルコトニ評定セリ



(二) 稻作改良ノ普及ヲ圖ル順序方法

◎壹番(足治)曰稻作改良ハ久シキヲ經ザレハ其目的ヲ達スル能ハス故ニ稻作改良教師聘雇ノ如キモ必數年繼續セシメテ望ム○番外貳番(吉見)曰本年三月一日マテノ調査ニ依レハ郡内ニ於テ稻作改良法ニ依リ糊種ヲ下サントスルモノ二百二拾八人ノ多キニ達ス尤モ成松遠阪ノ兩村ニハ更ニ一人ノアルナシ諸君ノ參考マテニ之ヲ陳ブ○會長(山口)問試作者ハ單ニ種子ノミナラス苗代其他一般ノ事總テ改良法ニ從フ心得ナルカ○拾四番(中村)曰否試作者ノ中ニハ惟寒漬法ノミヲ以テ改良ト心得居ル人モナキニアラサレハ是大ナル謬見ナリ改良トハ決シテ斯ル容易ノモノニアラス採種挿秧苗代作り等ヲ最モ緊要ノ事トス○番外貳番(吉見)曰仮令寒漬ノミト雖モ二百數拾人ノ多キニ及ブハ本郡ノ農事上實ニ賀スベキナリ尙此上苗代作りナリ撰種ナリ施肥ナリ精々勸奨ヲ加フルハ早晚完全ナル改良ノ目的ヲ達スルヲ

得ルニ至ラン

(結局)本題ハ當會員ハ勿論各町村勸業會等ニ於テ精々勸奨以テ其普及ヲ圖ルヲニ決セリ

(三) 同業組合準則ニ據リ稻米改良組合ヲ設クルノ利害得失

◎番外貳番(吉見)各員ノ參稽ニ供セントストテ本郡私立勸業會ヨリ郡長へ呈出シタル組合規約ニ規定スベキ要項ヲ朗讀シ(氷上郡私立勸業會報告第拾五號廿四頁乃至廿七頁登載)且曰此積年ノ弊習ヲ一洗セントスル實ニ容易ノ業ニアラス今稻米改良組合ヲ設クルモ其實行甚々難シ然リト雖モ難キヲ以テ之ヲナサ、レハ將タ何ノ日カ改良ノ實ヲ見ルヲ得ンヤ故ニ本會ニ於テ適當ノ方法ヲ立テ以テ改良ヲ行ハシムヲ切望ス○三拾番(由良)曰余カ地方ニ於テ嘗テ組合準則ニ據リ稻米改良ニ着手セントセシニ苦情百出終ニ之ヲ實施スルヲ得ザリキ故ニ余ハ實驗上其行ハシ

難キヲ知ルニ依リ成ヘク新村ニ於テ申合セ位ニ爲シ置ク方却テ宜シカラント存  
ス○壹番(足治)曰地主ヨリコレカ改良ヲ爲サントセハ小作人ニ於テ必多少ノ苦情  
アルヲ免レサルベシ故ニ今地主ヲ其目的ヲ達セシメントセハ宜シク嚴重ナル組  
合規約ヲ設ケ若シ小作人ニ其規約ヲ遵守セサルカ如キモノアルトキハ直ニ其地  
所ヲ引上ルヲ得ル程ノ權利ヲ地主ニ持タシムレハ其目的ヲ達スル決シテ難キニア  
ラサルベシ○拾貳番(野村)曰組合準則ニ據リ稻米改良ノ組合ヲ設クルハ甚ク難シ  
如何トナレハ該準則ニ據ルルハ組合區域内ノ利害ヲ共ニスル者四分ノ三以上ノ贊  
成ヲ得ルニ非サレハ能ハス然ルニ我地方ノ如キハ地主ハ甚ク少ク小作人ハ甚  
ク多キニヨリ到底四分ノ三以上ノ贊成ヲ得難カラシ加之勢地主ヨリ下作ヲ依頼ス  
ルモノアルニ至ル故ニ余ハ實行シ難キヲ信ス願フニ本郡ノ稻米モ年一年改良ノ域  
ニ進ムモノ、如シ斯ノ如クナレハ今別段組合規約ヲ設ケストモ各町村申合位ニ止  
メ尙又獎勵ヲ怠ラサレハ漸次改良ヲ行フヲ得ベシ○廿四番(木下)曰余ハ廿一年度

ニ施行シタル申合規約位ノモノヲ採リ之ヲ行フトシタシ若シ今日難事ナリトノ  
之ヲ打捨置クトキハ終ニ改進ノ期アルナシ故ニ必一定ノ規約ヲ設ケンヲ望ム○  
廿一番(村上)曰本郡米ヲ播劔地方へ輸出スルハ其額僅々ナレハ常ニ播劔瀧野又ハ  
高砂等ニ於テ俵裝ヲ改造シにくム米ト稱シテ之ヲ販出スト云フ是レ本郡米ノ聲價  
宜シカラサルガ故ナリ不然ハ商人豈無益ノ勞ヲ取ランヤ本郡米ノ善良ナラサル以  
テ推知スベシ此際必適宜ノ方法ヲ設ケ以テ之カ改良ヲ圖ラサルベカラス殊ニ本年  
ハ特別地價修正ノ爲メ地主ニ於テハ多少其恩典ニ浴セサルナシ此時ニ當リ改良ノ  
方法ヲ計畫スル何ノ難キカ之レアラン故ニ余ハ組合準則ニ基カサルモ必ス一ノ  
規約ヲ設ケンヲ希望ス○拾參番(安藤)曰組合設置ノ事ニ關シテハ余モ一昨年熱  
心從事セシカ何分苦情多キニ依リ半途ニシテ止ミ其結果ヲ見ル能ハサリキ故ニ今  
改良ヲ圖ラント欲セハ先小作人ノ心服ヲ得ルニ非サレハ能ハス然ルニ今年ハ昨年  
ノ水害ニヨリ小作人ニ於テコレカ改良ノ計畫ニ應スルノ力ナキニ依リ宜シク明年

ニ譲リ而シテ今年ハ秋收ノ際地主ニ於テ豫メ良種ヲ精撰シ且漸次俵装等ヲ改良セ  
 ハ事甚タ難キニ非ス然ラズノ徒ラニ嚴重ナル組合規約ヲ設ケ専ラ小作人ノミナ責  
 ムルハ或ハ不可ナラン歟苟クモ地主タルモノ自ラ進ンテ改良セハ小作人モ亦隨テ  
 改良スベシ事情此ノ如クナレハ今年ハ姑ク組合規約等ヲ設ケザルヲ可トス○番外  
 壹番(郡長)曰此問題タル荏苒以テ日月ヲ送ラハ將タ何ノ時ヲ俟テ克ク改良スルヲ  
 得ンヤ故ニ少シク困難ナル事情アリ且本年ニ於テ畧其規約ヲ設ケ來年ヨリ之ヲ實  
 施スルトセハ可ナランカ尤規約ヲ設ケルト同時直ニ之ヲ實施スルハ甚タ困難ノ  
 事ナラン今各員中未タ敢テ改良ヲ不可トスル説アルヲ聞カス果シテ改良ノ意想アラ  
 ハ本年ニ於テ先其規約ノミニテモ設ケ置キタキモノナリ○四番(和田)曰余ハ組合  
 準則ニ據ルハ不賛成ナリ矢張廿一年ノ規約ヲ標準トシテ新町村毎ニ申合セ充分獎  
 勵ヲ加ヘ而シテ小作人ニハ相當ノ改良手數料ヲ與フルトシタシ○廿五番(上新)  
 曰廿一年ノ規約ノ如キハ之ヲ設ケタリトモ其實益アルヲ見ズ宜シク組合準則ニ據

リ充分嚴確ナル規約ヲ設クベシ而シテ町村長助役議員或ハ勸業會員等ニ於テ率先  
 規約ヲ履行シ漸次他ニ向テ誘導セハ何ノ行ハレ難キコカアラン

(結局)右問題ニ就テハ○拾三番(安藤)ノ明年ニ讓ル説○廿四番(木下)ノ廿一年  
 ニ評定シタル申合規約ヲ標準トシ適宜ノ規約ヲ設ケ一般施行セントノ説○廿五  
 番(上新)ノ組合準則ニ依リ嚴重ナル規約ヲ設ケテ履行セントノ説アレ且何レモ  
 賛成者少數ニテ否決ス依テ姑ク從前ノ通去ル廿一年本會ニ於テ評定セシ米質俵  
 裝改良申合規約標準ニ基キ各町村適宜ニ設クルコトニ決セリ

(四) 共有山野禁伐及樹苗植込ノ方法

◎四拾六番(安田)曰山野禁伐法ハ誠ニ今日ノ急務ニシテ速ニ之カ保護ノ方法ヲ設ケ  
 サルベカラス苟モ之ヲ忽諸ニ付スルハ何時又昨年ノ如キ容易ナラサル地變ヲ來  
 サンモ知ルベカラス本郡ニ於テ獨リ本鄉村ノ内市邊村邊ハ嘗テ禁伐林ノ法ヲ設ケ

シカ故ニ以前緒禿ナリシ諸山モ近年ニ至リ皆鬱葱トシ更ニ赤土ノ見ハル、所ナリ  
 是予カ常ニ獨リ嘆稱スル所ナリ望ムラクハ全郡ヲ普ク之ニ效ハシメントナ○壹  
 番(足治)曰昨年ノ洪水ノ爲メ樹苗ノ植込頗ル困難ナルベシ其等ノ所ハ櫟ヲ植込ム  
 ナ宜シカラント考フ○四拾六番(安田)曰山林ノ材ハ縦ヲ宜シトスルナラン如何ト  
 ナレハ縦ハ近頃販路廣ク又其苗ヲ得ル容易ナレハナリ○會長(山下)曰共有山禁伐  
 及樹苗ノ植込ハ元來保護ノ意ヨリ出ツ故ニ其保護ノ方法ヲ講究スルヲ以テ主眼ト  
 スベシ昨年四月市町村制實施以來日尙ホ淺キヲ以テ共有山ハ舊ニ仍リ舊町村ノ所  
 有ニシテ未ダ新町村ノ共有ナルヲ得サルモノナレハ今日町村長ニ於テ充分コレニ干  
 渉シ以テ新町村一定ノ法ヲ設クル場合ニ至リ難シ若カス姑ク舊町村毎ニ共有山管  
 理者ヲ撰定シ又新町村全体ヨリコレガ顧問者ヲモ撰擧シ相共ニ協議シテ保管スル  
 事トセハ如何

(結局)右問題ハ會長(山下)ノ説ニ滿場同意ヲ表セシヲ以テ則チ其レニ定マル

(五) 共有山野火入及焼畑ヲ禁スルノ利害得失

○廿番(梅垣)問焼畑ハ何ノ時代ヨリ始マリシヤ○壹番(足治)曰我地方ニ於テハ頗ル  
 古ク行ハル、モノカ今日古老モ亦其始マリシ年代ヲ知ラズ抑モ此焼畑ハ爲メニ肥  
 料ヲ得ルト蕎麥粟等ヲ刈収シ得ルトノニ利益アリ細民ノ是ニ頼リテ生活スルモノ  
 頗ル多シ○四拾六番(安田)曰常樂村ヨリ油良村ノ邊ハ土砂流出ノ爲メ常ニ川流ノ  
 填塞ヲ免レヌ是蓋シ上流地方ノ山林ニ焼畑多キカ故ナラント察ス是ヲ以テ全郡ノ  
 水利ヲ計ルルハ燒畑ハ全ク禁止セラレノコト望ム○七番(秋山)問昨年山崩ノ實況  
 ハ如何○壹番(足治)曰本村(舊稻土村)ノ山ハ多ク黒土ニシテ獨リ八幡山ハ赭山ナリ然  
 ルニ其山ハ大木ト共ニ崩レタリ是ヲ以テ觀ルルハ全ク燒畑ヨリ山崩ヲ來セシト思  
 ハレヌ乍去下流地方ニ於テ燒畑ノ害ヲ説カル、亦其謂レナキコトハアラサルナリ○  
 會長(山下)曰縣官ノ言ニ川流ノ填塞スルハ全ク山林濫伐及燒畑等ニ原因スト固

リ今焼畑ヲ禁シタルハ全ク川流ノ填塞ハ免ルベシトハ一概ニ言ヒ難クレモ又多少ノ害ナシトセス故ニ細民ノ他ニ生計ヲ營ムベキ道アレハ焼畑ハ可成之ヲ禁スルヲ可トスルナラン各員ノ意見如何○番外壹番(郡長)曰此問題ハ其關係スル所重且大ナレハ輕易ニ決定スベキコ非ス故ニ姑ク後會ニ讓リ其間充分研究シ而后其可否ヲ決スルコトセハ如何

(結局)本題ハ重要ノ件ナレハ輕卒ニ議了シ難キニヨリ更ニ研究ノ上後會ニ讓リ其可否ヲ決スルコトニ尙當局ニ於テモ充分調査アラソコト望メリ

(六) 種牡牛ヲ改良シ且牧牛繁殖ヲ促ス手段

◎番外貳番(吉見)曰本問題ニ就テハ曩キニモ説明セシ如ク先般來郡内一二ノ有志者ハ種々苦慮シ惟ラク之ヲ改良センニハ善良ナル種牡牛ヲ買入ル、ノ外良策アルヲ見ス然レモ今盛シニ之カ改良ヲ計畫セントセハ逆モ一二有志者ノミコテハ其目的

ヲ達スルヲ得ズ故ニ全郡ノ有志家協同一ノ會社ヲ創設シ善良ノ種牡牛ヲ購入シ有志者ノ求メニ應シ之ヲ配合セハ而三年ヲ經ルノ後ハ漸次改良繁殖シ利ヲ得ルコト期シテ待ツベシ本郡牧牛者ノ多キ遠阪神樂地方ノ有志者ニノ果ク能ク率先シテコソガ改良ニ從事セバ其好結果ヲ得ルコト必速カナラン然レモ若シ不幸ニシテ賛成者ヲ得サルトキハ仮令一二有志者ノミコテモ漸次改良ニ着手センコト誓ヘリト云フ既ニ有志者ノ一人ハ先日ヨリ買牛ノ爲メ神阪間へ出張セリ此頃其人ヨリ書ヲ掛ヘ寄セテ云幸ニ近日勸業會ノ開設アレハ其際一應各員へ互細相談アリタシ其上種牛購入ノ多少ヲ決セント欲スト各員意見アラハ陳述アリタシ○會長(山下)曰本題ハ二様ニ岐マサルヲ得ズ其種牡牛買入ノ事ハ之ヲ賛スルト否トノ二途アルノミ又牧牛ノ繁殖ヲ圖ルノ方法ハ別ニ討議セサルヲ得ズ然ルニ先刻來各員ニ於テ別段發言ナキヲ以テ聊カ見テ陳セントス夫種牡牛ノ事タル各地ノ情況ニ依リテ其利スル所自ラ差ナキヲ能ハス故ニ直ニ本會ニ於テ未ダ賛成ノ有無ヲ決スル能ハカレハ宜

シク各町村ニ於テ斯ノ如キ種牡牛飼育會社ヲ設立シ以テ其利益ノ多キヲ説示シ餘ハ有志者ニ一任スルコトシ又牧牛ノ繁殖ハ退テ町村勸業會ニ於テ精々勸奨スルコトセハ如何

(結局)本問題ハ會長(山下)ノ陳ベシ處滿場ノ賛成ニテ直ニ之ニ決セリ

(七) 第二回獎勵會出品ヲ米麥小豆綿繭糸茶織物ノ八種トナス

ヤ否

(結局)本題ニ付テハ○廿六番(山口)ノ小豆織物ノ二種ヲ除クノ説○廿四番(木下)ノ大豆竹細工ノ二種ヲ加フルノ説○四十四番(采女)ノ廿四番説ノ上更ニ煙草ノ一種ヲ加フルノ説以上諸説ハ皆同意者少數ニテ否決セリ○廿六番(細見)ノ大豆ノ一種ヲ加ヘ都合九品トスルノ説ハ賛成者多數ニテ可決セリ

附

(一) 養蠶改良及紅茶製造傳習生勸誘ノ事

◎番外二番(吉見)曰養蠶傳習生ハ昨年通りノ計畫ニテ一村ニ一名乃至二名トシ又傳習所ノ位置山東ハ昨年ノ通り山西ハ之ヲ神樂村ノ内文室村ニ移セリ而シテ昨年山西傳習所ハ生徒頗ル多カリシモ山東ハ如何ノ故ニヤ甚タ少ナカリシ本年モ亦今日マデニ山東西ヲ合セ僅ニ壹人ノ申込者アルノミ願ハクハ本會員ニ於テ充分勸誘アリタシ又紅茶傳習ハ今年ヲ以テ始メトス此件ハ昨年組合會ニ於テ山西山東各一ケ所金三拾圓宛ヲ補助シ其傳習ヲ無料ト爲スニ決シタリキ而シテ山東ハ茶所ナルニモ拘ハラヌ未タ紅茶傳習所開設ノ申込ナシ斯クテハ甚タ遺憾ノ至リナレハ可成傳習所ヲ設ケ以テ其業ヲ振起シタシ抑モ紅茶ハ海外ニ輸出スル所ノ額甚タ多キモノナレハ政府ヨリモ製茶輸出會社ニ對シ金貳拾萬圓ヲ補助セラレタリ此紅茶ハ其製造法甚タ容易ニシテ且其費用亦綠茶ヨリモ少シ而シテ又綠茶ト異ナリテ一時多量

ニ製造シ易ケレハ茶芽モ亦自ラ價ヲ増シ彼是大ニ利アリ望ムラクハ本郡ニテ斯業  
 ナ盛ナラシメテノヲ○七番(秋山)曰傳習生ノ件ハ歸村ノ上村々勸業會ニ於テ更ニ  
 村長等ト評議募集スルヲニセハ如何○會長(山口)曰紅茶傳習所設置ノコトタル最  
 モ緊要ノ件ナルヲハ今更言テ俟タカレ其傳習生等ニ至テハ只今即席ニ定メ難シ  
 故ニ七番說ノ如ク退テ更ニ町村長等ト充分協議ヲ遂ケ養蠶並紅茶傳習生ヲ募集ス  
 ルヲニセハ如何

(結局)本題傳習生勸誘ノ件ハ退テ町村長等ト協議ヲ遂ケ各町村勸業會等ニ於テ  
 夫々募集ノ手續ヲ運フニ決セリ

附

(二) 内國勸業博覽會縱覽人勸誘ノ事

(結局)本會員ヨリ出品者初メ其筋ノ人々へ精々勸誘スルヲニ決セリ

養蠶ニ係ル說話

養蠶教師菅野幸七會々來柏セシヲ以テ番外(吉見)ノ紹介ニ依リ會場ニ列シ一席ノ  
 養蠶ニ係ル談話及問答ヲ爲セリ其演談ハ私立水上郡勸業會第拾四號報告ニ掲載セ  
 ル同氏養蠶講話筆記ト大同小異ナルヲ以テ今畧之而シテ各員問答ノ要旨ハ左ノ如  
 シ

◎七番(秋山)問節蠶ヲ生スルハ其蠶ノ性質ニ因ルカ將タ飼育上ニ關スルカ○養蠶教  
 師曰節蠶ヲ生スルハ多ク三眠乃至四眠ノ後ニ在リ蠶ハ元來甚々濕氣ヲ惡ム故飼育  
 中多量ノ濕氣ヲ含ムハ往々節蠶トナル由之觀之節蠶ハ其性質ニ因ラヌシテ全ク  
 飼育ニ關スルヤ必セリ○七番(秋山)問蛻熟前ニ至リ蠶體堅硬トナリテ斃死(白疆  
 蠶)スルハ何ノ原因ゾ○養蠶教師曰其ハ空氣ノ流通惡シキニ因ル若シ空氣流通ノ  
 惡シキハ室中自ラ一種忌ムヘキノ臭氣ヲ生シ爲メニ飼育上ニ障害ヲナス一鮮ナ

カラス故ニ養蠶中ハ臭氣アル魚類ヲ煮ル等ハ宜シカラス○壹番(足治)問一眠乃至三眠ノ間蠶床乾燥シテ爲メコ困難ナルヲアリ豈其防禦法ナキヤ○養蠶教師曰留桑ヲ充分ニ與フベシ惟留桑ノ量ヲ増スルハ以テ其害ヲ免ル、ヲ得ベシ○壹番(足治)問七十五度位ノ溫度ヲ用ウルルハ二晝夜ヲ經サレハ發生セス若シ八十度位ノ溫度ヲ用ルハ速ニ發生スベキカ○養蠶教師曰然ラス七十五度位ト雖ヒ漸次溫度ヲ高メテ同度ニ達セシメ毎日蠶紙ヲ上下ニ吊リ替へ全面平均ニ溫度ヲ與フルルハ必ス一齊ニ發生スベシ○壹番(足治)問掃立ヨリ二三十分間ヲ經而后桑附スルヲ宜シトスト聞ク如何○養蠶教師曰掃立后二三十分ヲ經而后桑附スベシトハ學理上ノ説ナレト實際直チニ桑附スルモ別段差支ナキモノ、如シ○七番(秋山)問生壁ノ蠶室ハ宜シカラスヤ○養蠶教師曰然リ甚ク惡シ、○三拾六番(細見)曰蠶種紙ハ匣中ニ納メ置クト吊リ置クト何レカ可ナルヤ○養蠶教師曰匣中ニ納メ置クハ極ノテ惡シ、又之ヲ吊ルニモ火氣ノナキ空氣清冷ノ場所ヲ擇フヲ可トス○七番(秋山)問溫度ノ低下

セシト燒火チナスニハ何材ヲ用ヰテ可ナリヤ○養蠶教師曰學者ノ説ニ松等ヲ惡シトシ而シテ柞等ヲ善シトス是レ炭酸氣ノ少ナキカ故ナリ○七番(秋山)問桑ノ枯木ヲ燒ケハ如何○答曰最善シ

議 題

◎會場整理概則

- 第一 會員到着セハ其宿所ヲ明記シ直ニ會長ニ届出ベシ參會者三分一以上ニ及ベハ開會スルヲ得〔本項修正下參照〕
- 第二 開談ハ朝八時ヨリ午後四時迄トス但時宜ニ依リ會長ノ意見ヲ以テ伸縮スルヲアルベシ
- 第三 會員ノ席次ハ毎會議ニテ決定スベシ
- 第四 會談ノ始終ハ擊拆ヲ以テ之ヲ報スベシ



第五 議事ノ体ヲ用ウルト談話体ヲ用ウルトハ隨時會長ニ於テ決定スベシ但議事  
体ヲ用ウル場合ニ在テハ其議事細則ハ氷上全郡町村組合會々議細則ヲ適用スルモ  
ノトス〔本項修正下參照〕

第六 開談中ハ會員ノ氏名ヲ稱ヘスシテ座席ノ番號ヲ用フベシ

第七 發言セントスル者ハ先會長ト呼ビ應諾ヲ經ベシ二人以上一時ニ發言シ或ハ  
先後ヲ亂リ紛擾スルコトヲ得ス

第八 會員ハ會長ノ許諾ヲ經スシテ其席ヲ離ル、コトヲ得ス

第九 開談中私語雜沓禁止タルベシ

第十 遲參ノ會員ハ會長ニ向テ其理由ヲ告ケ許諾ヲ得テ後就席スベシ

第十壹 病氣等不得止事故アリ缺席スルモノハ其事由ヲ記シテ會長ニ届出ベシ

〔本項修正下參照〕

第十貳 會談ヲ傍聽スルモノハ常ニ傍聽席ニ在テ靜肅ヲ主トスベシ私語シ或ハ形容

言語等ヲ以テ贊成擯斥ノ意ヲ表シ又ハ喧擾スルヲ許サス會長ニ於テ開談ノ妨ケヲ  
ナスモノト見認ムル時ハ書記ニ命シテ退場セシムベシ

(結局)右開議ノ處總体ニ就キテハ更ニ異見ナク原案ニ決シ二次會即逐條議ニ於  
テ〇六番(足重)ノ稱号會場整理概則ノ上ニ氷上郡勸業ノ五字ヲ冠セントノ說〇  
二拾三番(中島)ノ本按第一ハ昨年全郡町村組合會ニ出テシ勸業會規則ノ附則第  
一ヲ修正シテ稍々緩ニセシモノ、如クナレハ矢張前附則通テ可トストノ說アリ  
シカ△廿貳番(若調)ハ其大体ヲ贊シ且尙少ク修正シ即チ會員到着セハ其宿所ヲ  
明記シ直チニ會長ニ届出ベシマデハ本按ノ儘存シ置キ其下ニ附則ノ萬一出頭シ  
能ハサルノ事故アルハ前以テ郡役所ニ届出ベシ事豫知ス可カラサル者ニ係リ缺席  
スルハ開會ニ至リ會長ニ向テ相届クヘシノ文字ヲ添接セントノ說〇七番(秋山)  
ノ第二ノ開談ハ朝八時トアルヲ午前八時トセントノ說〇貳拾三番(中島)ノ第五  
ノ組合會々議細則ノ次へ第五條乃至第十壹條ノ文字ヲ挿入セントノ說、以上諸

説ハ何レモ賛成者多數ナルヲ以テ可決ス○六番(足重)ノ第拾及第拾壹ハ組合會々議細則第五條乃至第拾壹條中ニ其明文アレハ全ク之ヲ削除スベシトノセツハ同意者少數ニテ否決ス○又貳拾三番(中島)ノ第拾壹ヲ削除シ之ニ代フルニ滯在中欠席スル者ハ其事由ヲ記シテ當日會長ニ届出ベシトノ文面ヲ以テセントノ説ハ過半数ノ賛成ヲ得則チ之ニ可決セリ、右ニテ逐條議チ了リ更ニ第三次會ヲ開キシニ滿場異議ナシ則チ二次會決議ノ通り確定セリ依ツテ更ニ其修正ノ條項ヲ左ニ掲ケ

水上郡勸業會場整理概則

第 壹 會員到着セハ其宿所ヲ明記シ直ニ會長ニ届出ベシ萬一出頭シ能ハザルノ事故アルハ前以テ郡役所ニ届出ベシ事豫知スベカラザルモノニ係リ欠席スルハ開會ニ至リ會長ニ向テ相届クベシ

第 五 議事ノ体ヲ用フルト談話体ヲ用フルトハ隨時會長ニ於テ決定スベシ但議事

体ヲ用フル場合ニ在テハ其議事細則ハ水上全郡町村組合會々議細則第五條乃至第拾壹條ヲ適用スルモノトス

第拾壹 滯在中欠席スルモノハ其事由ヲ記シ當日會長ニ届出ツベシ

〔參照〕水上全郡町村組合會々議細則摘録

第五條 凡ソ議事ハ左ノ三次會ニ區別ス但議長又ハ議員多數ノ意見ニヨリ二次會若クハ三次會ヲ併議スルコトアルベシ

第壹次會 議案總体ヲ論議シ否決スルハ其議題ヲ消滅スルモノトシ可決スルハ其議題ノ爲メ第二次會ヲ開クベシ

第二次會 逐條討論審議スベシ否決スルハ其議案ヲ消滅スルモノトシ可決スルハ其議題ノ爲メ第三次會ヲ開クベシ

第三次會 全案ニ就テ評議確定スベシ

第六條 第一二次會ニ於テハ壹名以上第三次會ニ於テハ三名以上ノ賛成者ナキモノハ之ヲ議題トナスヲ得ス

第七條 第三次會ニ於テハ一議題ニ就キ辨論ニ回ヲ超フルヲ得ス但誤解ヲ辨明シ及ヒ各員ノ問ニ答フルハ此限ニアラス

第八條 勸議及修正説ヲ提出セント欲スルモノハ録シテ文案トシ是レヲ議長ニ出シ又ハ議席ニ於テ陳述スルヲ得

第九條 建議セント欲スルモノハ前條ノ手續ニ依ルベシ此場合ニ於テハ議題トナスヤ否ヲ取決スベシ

第十條 修正及調査ニ付委員ヲ要スルハ投票ヲ以テ撰任スベシ投票同數ナルハ年長者ヲ取り同年ナルハ圖ヲ以テ之ヲ定ム但委員ノ數ハ奇數トシ議長之ヲ定ム

第十條 可否ノ數ヲ算スルハ議長議員ニ起立ヲ命ジ之ヲ表セシメ書記其數ヲ點檢シ其決定ハ議長之ヲ陳告ス但時宜ニヨリ投票ヲ以テ取決スルヲアルベシ

右ニテ各議題及問題共全ク結了セリ○會長(山下)於是本會ヲ閉場スベキ旨ヲ報シ且宣言シテ日本會創設以來既ニ幾千ノ星霜ヲ經干茲其第九回ヲ了スルニ至リ其間議決又ハ評論セシ處ノ條件果シ幾何ナルヲ知ラス而シテ皆能ク實際ニ行ハレタル歟否未タ其行ハレサルモノ蓋シ多々ナルベシ希ハクハ諸君此間評論シタル事件ヲシテ會場數日ノ空談ヲラシメス可成此旨趣ヲシテ普ク民間ニ徹底シ十分實地ニ利用スルニ注意アレ終ツテ各員一同敬禮シテ散會セリ

附

會員參照ノ便ヲ圖リ氷上全郡町村組合會ニ於テ規定施行セル本會規則ヲ左ニ登載ス

◎氷上郡勸業會規則

第壹條 本會ハ農工商業ノ利害得失ヲ談話討究シ其發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第貳條 會員ハ專員加員ノ二種トシ左ノ人員ヲ以テ組織ス 但各員其權務ニ於テ徑庭ナカルベシ

專員 貳拾六名

專員ハ各町村壹名宛トシ該町村勸業擔任常設委員及勸業會員ノ互撰ヲ以テ定ムルモノトス

加員 貳拾七名

内

町村長 貳拾六名

勸業諮問會員 壹名

第參條 專員ノ撰舉ハ前條ノ方法ニ依リ町村長ニ於テ取扱其當選者ヲ郡長ニ報告スベシ

第四條 專員ハ二年(則定期二回)毎ニ改撰ス但退任者ヲ再選スルヲ得

第五條 專員任期中其任ヲ辭スルカ或ハ缺員アルハ其町村長ハ更ニ補欠員選舉ヲ行ヒ之ヲ郡長ニ報告シ前員ノ任期ニ滿タシムベシ

第六條 會員ノ互選ヲ以テ會長並代理者各壹名ヲ撰任スベシ其任期ハ二ケ年(則定期二回)トス

第七條 本會ノ庶務ハ郡役所勸業掛員之ヲ措辨シ猶書記ヲシテ日誌記録ヲ調製セシムベシ但書記ハ會長之ヲ撰用スルモノトス

第八條 本會ハ一年一回トシ毎年二月ニ開會スルモノトシ其日限場所等ハ郡長豫メ決定告示ス但時宜ニ依リ其會期ヲ伸縮スルコトアルベシ

第九條 談題ハ郡長之ヲ撰選ス但會員ハ各其意見ヲ具シ郡長ニ向テ之ヲ談題ト爲カンコトヲ求ムルヲ得

開會中ニ限リ會員ハ直ニ會長ニ向テ前同様談題トスルノ請求ヲ爲スヲ得此場合ニ於テハ會長會員ニ問ヒ其採否ヲ定ムルモノトス

郡長及主務吏員ハ會場ニ出席シ提出スル所ノ談題ニ就キ其旨趣ヲ辨明シ及勸業上ニ付意見ヲ陳述スルヲ得

第拾條 會長ハ會員ノ談論ヲ紹介シ會場ヲ整理ス若シ規則ニ背キ會長之レヲ制止スルモ其命ニ從ハサルモ何人ヲ問ハス之ヲ會場外ニ退出セシムベシ

第拾壹條 會員ハ本會ノ目的ニ違ハサル限り十分談論スルヲ得ルト雖モ人身上ノ褒貶毀譽ニ涉ルヲ得ス

第拾貳條 會員ノ外ニシテ本會ニ列席セシテ望ム者アルモ會長ハ差支無キヲ見定メタル場合ニ限り之レカ座席ヲ與フル者トス之ヲ稱シテ客員ト曰フ

第拾參條 會談ハ傍聽ヲ許ス但郡長ノ請求又ハ會長ノ意見ニヨリ之レヲ禁スルコトモアルベシ

第拾四條 勸業上ノ公益ノ事件ニシテ出席會員過半數ノ同意ヲタル者ハ本會ノ意見トシ會長ノ名ヲ以テ郡長又ハ縣知事農商務大臣等ニ建議若シハ報告スルコトアルベシ

第拾五條 勸業上ノ事件ニ付農商務大臣縣知事又ハ郡長ヨリ諮問アルモハ審議ノ上其旨ニ答フルモノトス

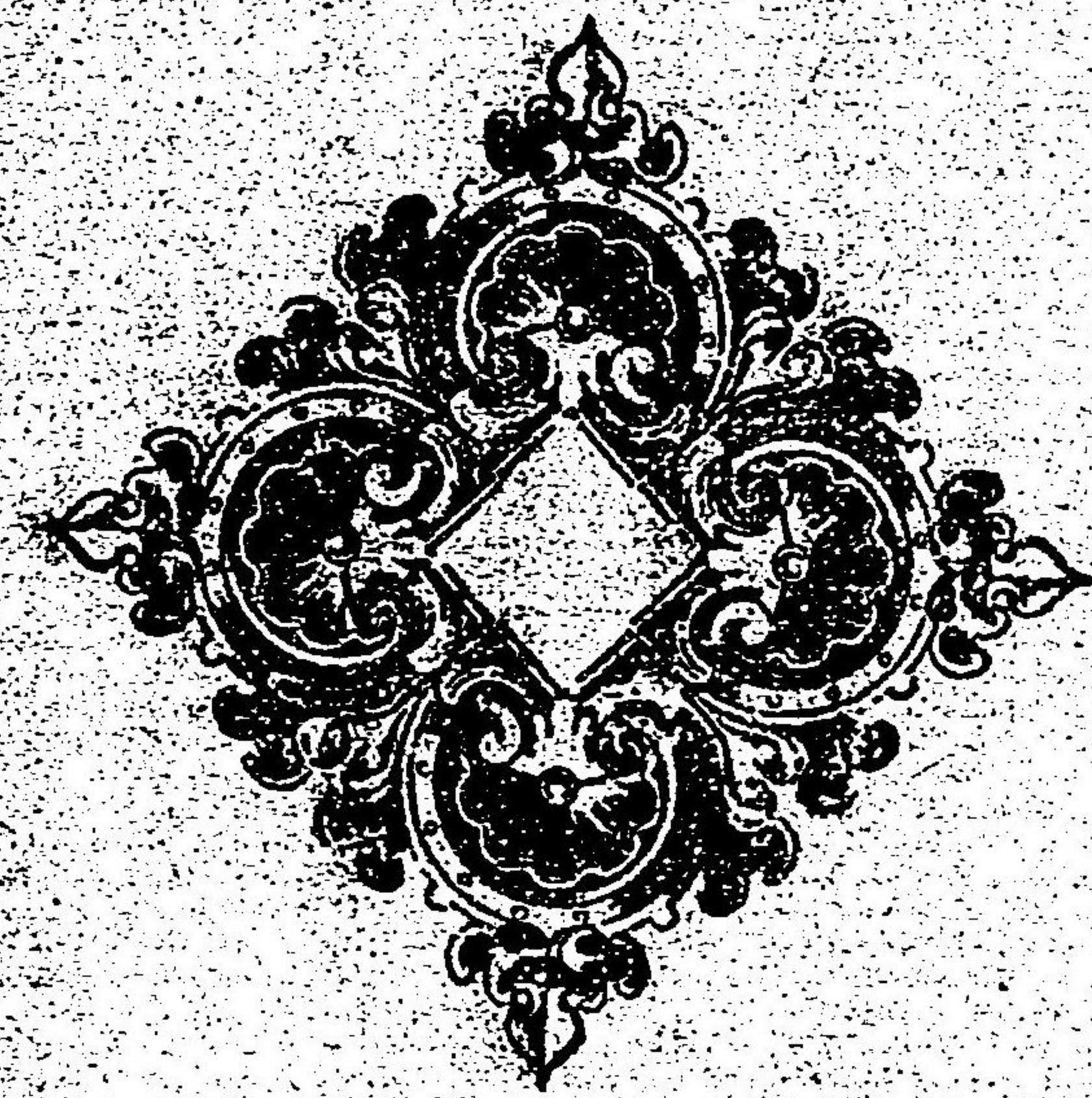
第拾六條 凡會員ハ閉會後ノ町村勸業會等ニ望ミ本會ノ談旨ヲ說示スルハ勿論猶其實施ニ周旋盡カスルノ義務ヲ帶フルモノトス

第拾七條 談論ノ顛末ハ日誌ニ登記シ會員及各町村等ニ配付スベシ

第拾八條 本會員ハ無給トシ旅費並賄料等ヲ支給ス其定則ハ水上全郡町村組合會議員ノ例ニ依ル但町村長ハ職務ニ付帶スルモノトシ本會ヨリ支給セサルベシ

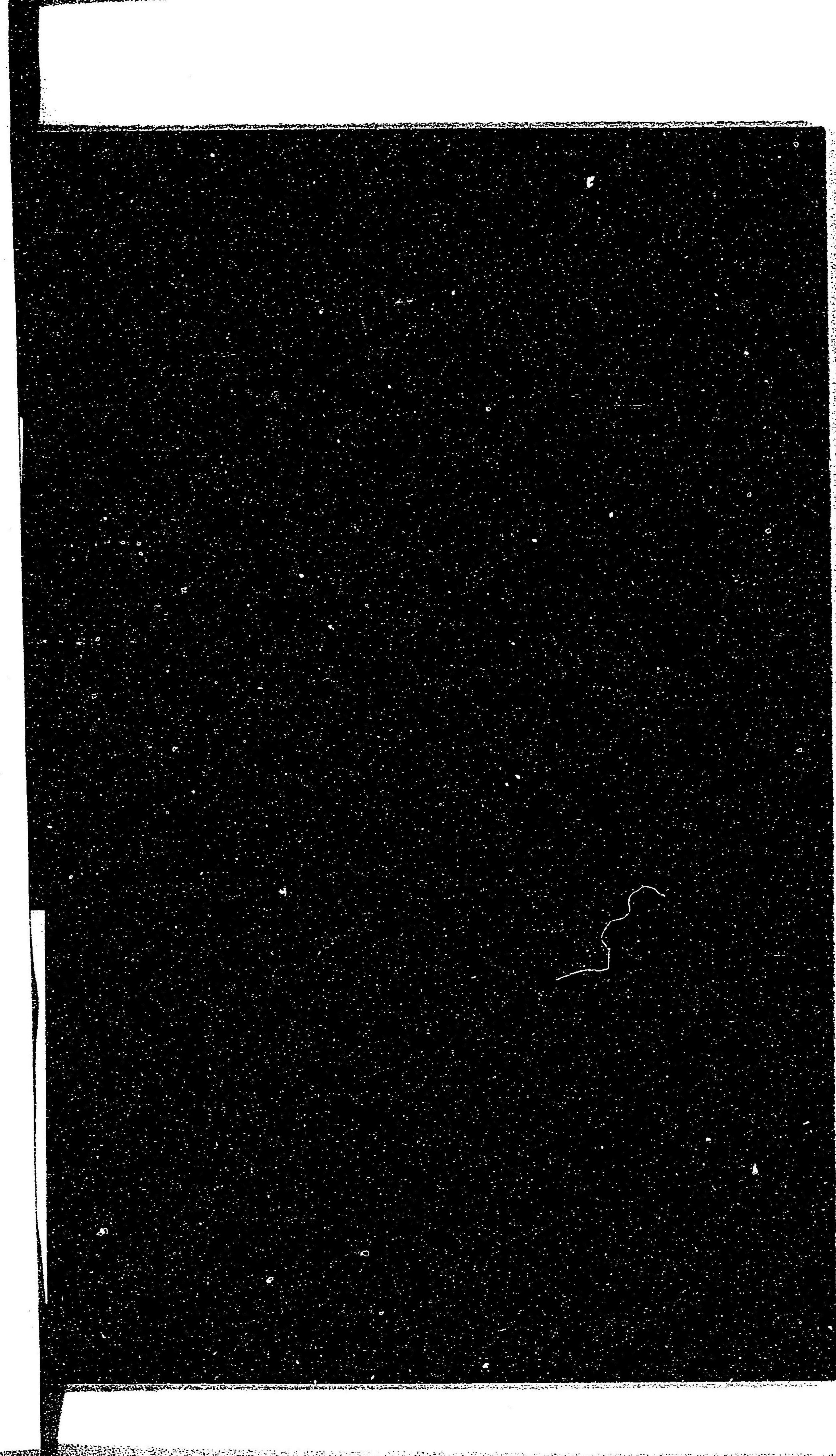
第拾九條 本會ノ費用ハ毎年水上全郡町村組合會ノ議決ニ依リ該組合費ヲ以テ支辨ス

終



全  
明 十三年五月廿一日  
明 十五年三月廿一日  
明 十六年六月二日  
行 局  
兵庫縣水工郡役所印行

印刷。柏原有之。





特 46

294

氷上郡第九回勸業会録事

国立国会図書館